

オムツの適切使用による褥瘡予防



執筆 ▶
濱元佳江
 nagomi堺鳳訪問看護ステーション 管理者
 皮膚・排泄ケア認定看護師

褥瘡が発生すると、医療的処置に伴う苦痛や経済的負担だけではなく、生活に様々な制限が必要になります。褥瘡は適切な体圧分散ケア、栄養改善、スキンケア、局所治療によって治癒しますが、何よりも褥瘡発生を予防することが重要です。要介護状態と認定された方が最初に関わるのはケアマネジャーの皆さんです。ケアマネジャーが要介護状態の方の褥瘡を予防するキーマンだと言っても過言ではありません。

ケアマネジャーが在宅で活用するためのリスクアセスメントツール「床ずれ危険度チェック表[®]」(日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会)が開発されました。「床ずれ危険度チェック表[®]」は誰でも評価しやすいチェック項目で、8項目中4項目以上にチェックが付いた場合に「床ずれハイリスク」と判断できます(表1)。8項目の中で「オムツを常時使用している」に着目し、褥瘡予防のための排泄ケアについてお話します。

人は、できるだけ人の手をわずらわせ

ず気持ちよく排泄したいと思っています。トイレの環境整備、排泄補助器具の使用、行動療法などによっても改善しない失禁がある利用者さんは、オムツの使用を余儀なくされます。利用者さんにとってオムツは、衣服の汚染を予防し品格の保持が可能になるという利点があり、生活の質を向上させる有用な用具です。しかし、不適切な使用により床ずれのリスクが高くなるため、安易な使用は避けるとともに、使用する際は利用者さんに合ったものを適切に選択し、正しく装着しましょう。

オムツの構造を知る

オムツの構造は、体に接触する「表面材」、尿を吸収する「吸収材」、寝具や衣類を汚染させない「防水材」、漏れを予防する「立体ギャザー」があります。日本のおむつメーカーは、お肌に優しい製品を開発していますが、「防水材」に**透湿性のない製品は蒸れやすい**ので注意が必要です。利用者さん

ケアマネジャーが知っておきたい オムツ使用時と 座位時の褥瘡予防

ベッド上での褥瘡ケアの情報は目にするが、それ以外の生活シーンでの情報は不足しているようだ。そこで、在宅で褥瘡予防・ケアに携わっている訪問看護師、作業療法士のお2人に、オムツ使用時と座位活動時の褥瘡予防に関する基礎知識を聞いた。

表1 床ずれ危険度チェック表^{®1)}

	項目	チェック
1	自分で寝返りがうてない	
2	痩せて、骨張っている	
3	足や腕の関節を伸ばすことができない	
4	食事量(回数)が減った	
5	体が汗で湿っていることがある	
6	おむつを常時使用している	
7	足が浮腫んでいる	
8	ギャッチアップ機能を利用して体を起こしている	
	合計	個

4個以上にチェックが付いたら「床ずれハイリスク」と判定する。